

【紀要委員会企画】

〔報告〕

聖隷クリストファー大学看護学部
2021 年度シミュレーション教育委員会の活動報告

兼子 夏奈子 炭谷 正太郎 久保田 君枝 酒井 昌子 檜原 理恵
黒野 智子 室加 千佳 三輪 与志子 入江 拓 宮谷 恵
氏原 恵子 小池 武嗣 伊藤 賢 野村 梨奈 藤本 栄子

聖隷クリストファー大学 看護学部

Report on the Simulation Education Committee
of the School of Nursing, Seirei Christopher University in 2021

Kanako Kaneko, Shotaro Sumitani, Kimie Kubota, Masako Sakai,
Rie Kashihara, Tomoko Kurono, Chika Muroka, Yoshiko Miwa, Taku Irie,
Megumi Miyatani, Keiko Ujihara, Takeshi Koike, Ken Ito,
Rina Nomura, Eiko Fujimoto

School of Nursing, Seirei Christopher University

《抄録》

本報告は、聖隷クリストファー大学看護学部における 2021 年度シミュレーション教育委員会の活動目的・役割、各領域におけるシミュレーション教育実践、および「Web 聖隷タウン」構築に関するものである。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う学修への影響や、2022 年度カリキュラム改正を前に、本学では今後もシミュレーション教育の向上が必要であり、シミュレーション委員会には、学内のシミュレーション教育が円滑かつ充実したものとなるような役割が求められている。今後は、①各領域のニーズを反映した汎用性の高いシミュレータや教材の整備、②遠隔形式においても安定した学修が可能な環境の整備、③シミュレーション教育の支援に重要なテクニシャン・デザイナー・Web オペレーターといった補助要員の継続的な確保が課題である。

《キーワード》

シミュレーション教育、看護基礎教育

2021 年 1 月 4 日 受付・2022 年 2 月 22 日 受理

I. はじめに

医療の高度化、入院期間の短縮化により、今日の看護では、医療安全、臨床推論に基づく観察から看護介入や報告の判断・評価を迅速に行うことがかつてないほどに重視され、これらを踏まえた看護実践と新たな責任が求められるようになってきている。その一方で、患者の権利と安全の確保の観点から、看護学生が臨地看護実習で患者へ侵襲を伴う行為を体験することが難しくなっている。こうした状況は、学生にとって学校での学びと臨床での実践とのギャップとなり、早期の離職にも関連している。こうした背景を受け、日本では2007年頃から、臨床実践能力の取得に向けた臨床実践に近い状況を想定した演習の強化(厚生労働省看護基礎教育の充実に関する検討会, 2007)、侵襲を伴う行為を習得するためのシミュレータの活用や状況を設定した演習の充実の必要性(厚生労働省看護教育の内容と方法に関する検討会, 2011)が指摘され、全国でシミュレーション教育の導入が加速した。

本学看護学部においても、各領域における取り組みをはじめ、交流協定校である米国のサミュエルメリット大学とのシミュレーション教育に関する情報交換や研修を経て、2016年に看護学部の教員有志によるワーキンググループ「シミュレーション教育チーム」を結成され、2017年度より看護学部諮問委員会として現在の「シミュレーション教育委員会」が発足された(炭谷, 久保田, 檜原他 2017; 炭谷, 久保田, 小池他, 2020)。

本学でのシミュレーション教育の導入が推進されるなか、2020年度から新型コロナウイルス感染症(Corona Virus Disease; COVID-19)の世界的感染拡大により、本学の授業も、完全遠隔式授業や対面式と遠隔を組み合わせたハイブリッド式授業などとなり、臨地看護学実習においても、従来のような施設での実施が困難となったケースも多くみら

れた。そのため、V. 看護学部のシミュレーション教育への支援と各領域のシミュレーション教育実践でも述べるが、教員は、各領域での実習での学修目標到達に必要な代替実習プログラムの構築や、限られた実習環境のなかで到達可能な学修目標や評価方法の見直しなどが急務となり、シミュレーション教育を看護教育へさらに導入する動きが高まった。本年度は、各領域においてもCOVID-19感染拡大の状況を鑑みながらも、前年度に構築し、展開してきた結果を基に、学生のシミュレーション学修により効果的となるようにプログラムの改善などが行われていた。

本報告では、本学看護基礎教育における2021年度のシミュレーション教育委員会の活動報告および各領域における実践と、2022年度看護学部新カリキュラムを検討するカリキュラム改革委員会と共同し着手している「看護共通実践力育成のための発展型データベース・シミュレーション教材(以下、Web聖隷タウン)」構築について報告する。

II. 目的

本学看護学部におけるシミュレーション教育委員会(以下、本委員会)の2021年度活動報告と各領域の実践報告および、「Web聖隷タウン」構築についての報告を目的とする。

III. 2021年度シミュレーション教育委員会構成員・補助要員と主な活動目的・役割

2021年度の構成員は、基礎看護学領域・在宅看護学領域・成人看護学領域・母性看護学領域・および助産学専攻科から参集した計8名の教員である。くわえて、シミュレーション教育の補助要員として、準職員2名を本学看護学部は登用しており、この2名の補助要員に、シミュレーション関連の機材整備、環

境づくり、管理に従事し、シミュレーション教育展開時のシミュレータ操作も担う「テクニシャン」、シミュレーション教育に関する視覚領域における意匠計画や図案、設計を担う「デザイナー」という役割を依頼している。

本委員会の活動目的は、シミュレーション教育に関する環境の整備およびシミュレーション教育の推進を担い、本学の教育力向上に寄与することである。その役割としては、①シミュレーション教育に関する環境の整備、②シミュレーション教育に関する研修会等、教員の学修の機会の提供、③ 1504 教室および 1309（視聴覚教材製作）教室（以下、シミュレーションルーム）の利用管理、④シミュレーションルームの機材および備品管理、⑤シミュレーション教育を実施する者の要請を基にした支援、⑥シミュレーション教育に関する広報活動を主としている。

さらに、国内の COVID-19 感染拡大にともなう対応として、大学外の遠隔および複数教室の画像・音声のライブ配信の需要が高まったため、昨年度に続き今年度もシミュレーション教育の補助要員を中心に通信設備・運用のテクニカルサポートに尽力した。

Ⅳ. 2021 年度シミュレーション教育委員会の活動

1. シミュレーション教育の実践環境の整備

本学の 2021 年度看護学部当初予算に計上された機材のうち、本年度は主に下記 2 点について報告する。

1) モバイルノートパソコン（HP ENVY x360 13-ay0000）1 台、タブレット型端末（iPad）1 台：テクニシャンが遠隔授業やシミュレーション教育実践の支援を行う際にモニター用として整備した。

2) ウェアラブルカメラ（ORDRO EP 7）1 台：カメラを装着した人の視線と同じ視野で画像を撮影可能な視聴覚教材作成機

材として整備した。

2. シミュレーション教育に関する学内研修

2021 年 11 月に「Web 聖隷タウン アイデアワークショップ」を開催した。この活動の詳細については、Ⅶ. 「Web 聖隷タウン」構築についてのなかで述べる。

3. 補助要員との協働

現在、2 名の準職員が、テクニシャン担当とデザイナー担当として本委員会と協働している。

その活動は、「シミュレーション関連機材の管理、準備・片付け」、「遠隔授業のテクニカルサポート（基本的操作やモニタリング、トラブルへの即時対応、教員個別の要望を踏まえた機器のセッティングなど）」、「Web ツールやシミュレーション機材等のマニュアル作成」、「教員が作成する動画教材等の動画・画像データ編集や字幕・翻訳の入れ込み作業など」、「Web 聖隷タウンなどのシミュレーション学修のための教材開発の支援」であった。年間の活動時間は 659 時間であり、遠隔授業への支援は年間 120 件であった。

Ⅴ. 看護学部のシミュレーション教育への支援と各領域のシミュレーション教育実践

本委員会は、各領域のシミュレーション教育実践を支えるため、教育用途に合わせたシミュレーションルームの整備や、教員が行う演習室からの画像や音声によるライブ配信等の支援を行った。

本委員会では、各領域のシミュレーション教育実践を支えるために、各領域の用途に合わせて、シミュレーションルームと各領域の演習室を画像・音声のライブ配信等、環境構築を行った。また、物品・機材の使用が円滑に適うように、使用頻度の高い領域を中心に

高機能シミュレータに関する必要物品等の意見を聴取し、高機能シミュレータ周辺の備品を整備した。さらに、シミュレーションルームの予約や、シミュレーション教育の補助要員とその支援を必要とする領域間とのスケジュール調整のため、クラウド型のカレンダーアプリを採用した。

本学看護学部各領域における主な実践内容は以下のとおりである。

1. 基礎看護学領域

2年次生の基礎看護学実習Ⅱにおいて、臨地実習の前に客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination；以下、OSCE）を実施した。OSCEの内容は手洗い、環境調整（口頭試問）の他、バイタルサイン測定もしくは車いすの移乗である。患者役として、卒業生など対象に脳梗塞左片麻痺患者の模擬患者8名を学内で養成した。

COVID-19の市中感染が拡大し、基礎看護学実習Ⅱの臨地実習の代替として、学生は自宅から参加するオンライン実習を実施した。看護過程の基礎を学修するという目的を適えるため、模擬患者9名を学内で養成し、教育用電子カルテにデータベースを作成した。実習室に模擬患者にあわせて療養環境を設定し、学生はオンラインにて患者へフィジカルイグザミネーションの実施など模擬患者に説明すると、担当教員が実施した結果を学生へ伝え、学生は得られた情報からケア計画立案までの看護過程を展開した。教員が模擬患者役、病棟看護師役を兼任した昨年度と異なり、模擬患者を養成したことにより教員の負担が軽減し、シミュレーション教育の忠実度が向上した。また、専任の補助要員（テクニシャン）の協力もあり、安定した遠隔通信の環境が構築された。

4年次生の統合演習では、臨床判断の修得を目的にシミュレーション・ベースド・トレーニングを実施した。具体的には、呼吸困難を

呈する症例において、①模擬患者への問診・フィジカルイグザミネーション、②高機能シミュレータを用いた急変時の対応と報告、③ロールプレイによる急変場面における膀胱留置カテーテル挿入の3場面を設定した。

2. 在宅看護学領域

在宅看護学科目には演習がなく、実習においても訪問看護師と同行訪問という形態から学生が看護実践する機会は少ないため、学内実習において在宅看護場面のシミュレーションを実施している。本年度は、COVID-19の感染予防によって各領域の臨地実習が1週間と短縮され、より学生の実践機会が減じたこともあり、従来の訪問マナーを目的としたシミュレーションから、臨床判断を目的とする内容に高めた。具体的には、療養者の在宅というシミュレーション環境のもとで在宅酸素療法中の慢性閉塞性肺疾患を有する療養者の訪問場面を設定した。これにより利用者の病状観察と生活環境や家族利用者を含めた包括的アセスメントから療養者の看護実践を行うこと、さらに実践には療養者のセルフケアのサポートや家族介護者への介護指導も想定したシミュレーションとした。その結果、学生の在宅療養者の臨床判断と看護実践のつながりを深めることができ、教員においても今回のシミュレーションの授業設計を通しシミュレーション教育力も高めることができた。

今後の課題は2点あり、1つ目は、在宅での緊急時対応、意思決定支援や多職種連携などの訪問看護のシナリオを増やすことである。2つ目は、再びオンライン実習になることも想定し、実習施設の協力のもと実際の訪問看護場面のライブ中継や、オンデマンド教材の作成などに取り組むことである。このような教材を生かして、生活の場における療養者とその家族のQOL（Quality of Life）の向上を目的とするシミュレーション教育の充実に努めていく。

3. 成人看護学領域

2021 年度の成人看護学領域（急性期）では、シミュレーション教育としては、シチュエーション・ベースド・トレーニングを取り入れ、3 週間の実習期間の中で 1 週目と 3 週目に 2 つのシミュレーションを行っている。実習 1 週目に実施している「術後患者の全身観察」のシミュレーションでは、事例患者の看護計画に沿って、術後ケアスーツを着用した患者役の学生に対して 2 名の看護師役の学生が役割分担をして、全身観察を実施し、実施後は学生間で振り返りを行い、教員からはフィードバックをしている。このシミュレーションにより、術後患者のイメージ化を図り、観察からアセスメントに繋げる思考トレーニングと適切な看護技術の提供を学修し、実習 2 週目の臨地実習への準備としている。実習 3 週目に実施しているシミュレーションは 2019 年から取り入れている統合シミュレーションである。術直後患者の全身観察、アセスメント、看護介入、SBAR（Situation, Background, Assessment, Recommendation；以下、SBAR）を用いた報告までを高機能シミュレータを用いて実施している。SBAR とは、迅速かつ適切な報告・連絡・相談のためのコミュニケーションスキルである。

今年度は、従来の「術後患者の急変時の看護」のシナリオに「術後急性疼痛の看護」のシナリオを追加し学修内容を高めた。シミュレーションセッション中におこる急変や疼痛に対する看護を 2 名の看護師役の学生が実施する。シミュレーション後のデブリーフィングでは、臨地実習で受け待ち患者に実践した看護を想起しつつ、活発なディスカッションを通して、知識と技術の統合や新たな学修課題の確認を行うことができていく。これらのシミュレーション教育は今後も継続して実施していく。

4. 母性看護学領域

2021 年度、母性看護学領域は対面・遠隔の講義や実習のハイブリッド方式において、以下の方法を取りながら、臨床場面の対象者のイメージの構築と対象者の理解を目的に、講義や実習を行った。

講義では、360 度カメラを使用しながら、新生児・ハイリスク新生児に対する優しいケアを考えると共に、ケアの実践を演習内で行った。また、事例を基に授乳支援や子宮復古状態の観察を KOKEN の産褥子宮触診モデルや株式会社エムシーピーの授乳指導人形を使用して援助場面のロールプレイを行った。

実習では、短期間の臨地実習の中で、事前にケアのイメージ化を図り、臨地内でケアが実践できるように以下のシミュレーショントレーニングを行った。更に、実習前にも、産褥子宮触診モデルにて子宮底長の観察と触知の技術の確認や、株式会社エムシーピーの搾乳トレーニングモデルにて初乳と成乳の違いについての観察や乳房の触知、KOKEN のコーケンベビー（新生児人形）を使用し新生児の観察と抱っこや沐浴の練習、授乳指導人形を使用し授乳時の観察と授乳指導の練習を実施した。事前に産婦・新生児のシミュレーショントレーニングを行ったため、臨地実習にて学生は、産褥・新生児の観察やケア実践を臆することなくスムーズに実施していた。

5. 小児看護学領域

小児看護学領域では、3 年次生春 semester の小児看護援助論Ⅱの技術演習において、小児モデル人形（新生児・生後 6 か月児）の身体計測および清潔（臀部浴）と、バイタルサインシミュレータ／看護実習モデル人形による観察（バイタルサイン測定）を行った。また、2021 年は学生が子どもへの聴診イメージをつかみ、実習で活かせる呼吸音聴診シミュレータ「小児ラング」により、3 年次秋 semester からの臨地看護学実習の一部の実

習生は実習期間中の学内学修の時間において、この小児ラングを使用した小児の呼吸音聴診のシミュレーション学修を行った。

臨地看護学実習の中のこども園実習Ⅰ・Ⅱにおいては、COVID-19の感染拡大により臨地の実習の開講ができなかった。そのため実習の代替案を考え、主に子どもの成長・発達について学ぶためのシミュレーション教材として、乳幼児の発達と保育についての映像教材および、子ども番組や子ども関連動画の視聴を活用した学修を取り入れた。

6. 精神看護学領域

看護教育には質の違う2つのアプローチがある。一つは① Science に裏打ちされた問題解決志向的な視座（知識）と、介入方法（技術）に関する教育と訓練であり、エビデンスに基づく科学的な真理を伝え、様々な教育方法を駆使して、結果を強制し、厳しくそれを課し、訓練してゆくアプローチである。シミュレーション教育は、エビデンスに基づく「看護の判断や行為」を教育・訓練してゆく方法論として強力であり、近年の ICT（Information and Communication Technology）の発展がそれを加速している。

もう一つのアプローチは、②対人関係場面での人格的交流を通して、学生に「深い原因を与えてゆく」というもので、この体験を通して学ぶことこそが「看護の営み」を根底で支えている。それは、弱さと限界を抱える人間が生きることそのものに関わる真理で、思いやること、傷ついても信じること、困難であっても逃げずに踏みとどまり、無力感に耐えながら共に苦しみ、共に歩むことであり、学生自らがその瞬間を生き、一連のプロセスを通して試行錯誤することによってしか解り得ないものである。これらの「体験」はいずれも Art の素養に裏打ちされるもので、特に本学の建学の精神と関連が深い。

特に精神看護学実習において、学生が新

たな文化と環境に移行し、精神疾患を抱えて生きる人と交流する際の、特徴的な情動体験のプロセスに焦点を当て、それに関する知識を、予期的社会化プログラムの中のシミュレーション演習として位置づけている。Art の感性を大切にしながら安全にそのプロセスを体験できる情報を提供し、言語化を促すための教材（入江，清水，2014；入江，清水，2014；清水 2015；入江，2018；清水，2018；清水，入江，2018；清水，松本，入江，2021；清水，2021；清水，入江，2022）を開発し、運用を重ねてきた。これらは、Science にもとづく客観的評価を前提とした教育的方法論と言うよりは、「学生を信じて人格的交流を通して Art の領域に種を撒き続ける」営みの拠り所として不可欠であると考えている。

2021 年度は 44 名の学生に対して、精神看護学実習前に、学生が体験する情動と患者との関係性のプロセスに関する論考（清水，2021）を、シミュレーション教材として活用して臨地実習に臨んだ。学生は、自身が異文化に入った時に、被る情動体験とその理由を言語化できるようになった状態で臨地実習に臨む。これらを通して、前述②に述べた建学の精神に関連した人間観と、看護の営みを支えるものへの学生の気づきと視野の広がりが見活かせられ、だからこそ①の知識や技術を学ぶことがいかに必要であるかという認識や動機に繋がっていることが、カンファレンスやレポートで明確に言語化されつつある。学部教育全体のシミュレーション教育の内容と質に関して、精神看護学領域が分担して担うべきものがより明確になって来たという感触を得ている。

7. 助産学専攻科

2021 年度の助産学専攻科では、講義は科目により対面授業と遠隔授業を必要に応じて使い分けをして進化した。実習においては、第 2 期実習（5 週間）が実施できない施設が

生じたため、実習にでられない期間は、学内で事例展開をし、その事例に沿ってできるだけ臨地に近い環境を作り、学生同士のロールプレイで助産ケアや分娩介助の演習を実施した。

演習時間は登校できたため、感染予防に努めながら例年通り妊婦健康診査の技術を、妊娠中期と後期の妊婦 2 名にモデルを願いし、妊婦健康診査を実施した。

また早産児高機能シミュレータを活用した児の観察とケアの演習では、経時的なバイタルサインの変化によって、観察したことから児の状態をアセスメントし、予測して対応することの重要性を学んだ。

実習に出られなかった期間は、学生が臨地で遭遇するであろうと思われる事例を正常～正常軽度逸脱～異常（社会的ハイリスク含む）の段階別に教員が 5 事例作成した。その事例を、時間経過を追って情報を学生に伝え、アセスメントと計画を立案してもらった。その後、立案した計画を指定した場面でロールプレイをしながら分娩介助から産褥までを実践した。更に追加の演習では、成人のモデル人形を使用し産科危機的出血での対応を経時的に情報を示しながら演習した。その後実習に出られるようになって、学生より「演習の事例と同じような事例にあたった。」「異常になってしまったが演習で経験していたので、落ち着いて援助できた。」等の言葉があり、シミュレーションを用いたトレーニングの重要性を再認識するとともに学生のレディネスに合ったリアルな事例設定と演習時のリアリティの再現が重要であると確認した。

今後は、今回作成した事例をもとに、「Web 聖隷タウン」で助産の事例として展開していけるよう検討していきたい。

VI. 「Web 聖隷タウン」構築について

本年度、カリキュラム改革委員会と本委員

会は、「Web 聖隷タウンの開発と活用」をテーマに 2021 年度聖隷クリストファー大学教育改革推進経費を獲得した「Web 聖隷タウン」とは、Web 上の仮想の街に、看護の対象である個人、家族、地域および制度に関する現実的情報を仮想コミュニティ上に構築・展開した教材である。この教材の開発目的は、看護学各領域における看護実践力育成と、教材を活用したシミュレーション学修を通じ、学生が主体的に学ぶことができる教育方法を確立することである。他の看護系大学では、「シミュレーション教育の効果を高めるための補助教材」（片野，山田，藤野他，2020）として類似した教材は開発がなされている。本学における、この教材の開発と活用により期待される効果は以下 3 点である。

- ① 学年や領域を隔てることなく、シミュレーション教育に関する教材などを一元化すること。
- ② 教材を一元化することにより、発展的に実践力育成の充実に向けたカリキュラム改善に寄与すること。
- ③ 学年あるいは領域を隔てることなく、共通の対象者を通じて成長発達段階や様々なライフイベントによる課題・背景を捉えること、それらに基づいた支援方法について、学生が主体的かつ段階的に学ぶことを可能とすることである。

これらの実現のために、カリキュラム改革委員会と本委員会によって構成されたワーキングメンバーにより、2021 年 4 月から定期的な検討を重ね、本年度は下記の活動を実施した。

1) 「Web 聖隷タウン」のプロトタイプを作成・施行・評価（4 月～12 月）：本学で利用可能な資源である Google サイトを用い、補助要員（デザイナー）の支援を受けながら試作を行った。

2) 「Web 聖隷タウン」のプロトタイプの修正：Web 聖隷タウンのワーキングメンバーおよび

本委員会の構成員から得られた試作への意見を反映し、修正を順次実施した。

3) 「Web 聖隷タウン」開発の現状報告 (7月): 同月教授会後に進捗状況について報告した。(図1)

4) アイデアワークショップの開催 (11月): シミュレーション教育に関する学内研修として、カリキュラム改革推進委員会と本委員会が合同で企画した。当初は8月の開催予定であったが、COVID-19の感染拡大を受け、11月に延期開催した。研修では、2022年度のカリキュラム改定を踏まえ、学生のシミュレーション学修による学修効果の向上のための教育方法や教材についてWeb 聖隷タウンの試作を基に、ブレインストーミングの手法を用いてアイデア出しを行った。参加者は26名であった。2人1組のブレインストーミング(ペアブレスト)を、相手を変えて3回実施し、創出された47のアイデアの中から、さらに良案として抽出した5つのアイデアを発展させるグループワークを展開した。

以上より、本委員会では、アイデアワークショップで得られたアイデアをより発展・具体化し、学部教員との共有を図りながら、

「Web 聖隷タウン」を構成するコンテンツや機能の精選と、プラットフォームに関する委託業者の検討および、Web上のツールの運用(設計・実装・管理・操作)を担うWebオペレーターを担当する新たな補助要員の確保を行い、実装に向けて取り組む計画である。

VII. 視察の受け入れ

2021年11月: 文部科学省高等教育局医学教育課の看護教育専門官、技術参与、係員の3名による視察(本学のシミュレーション教育への取組みについて、施設見学および実践領域からの報告)が行われた。

シミュレーション教育委員会は、視察において、①訪問者の要望にそった視察内容の構成案の作成、②シミュレーション教育委員会の取組の概要報告、③シミュレーション教育の施設・設備とその活用についての報告、④今後のシミュレーション教育の展開・展望の報告を行った。

シミュレーション教育を実践する領域からの報告では、成人(急性期)看護学領域から「高機能患者シミュレータを用いた術後患者

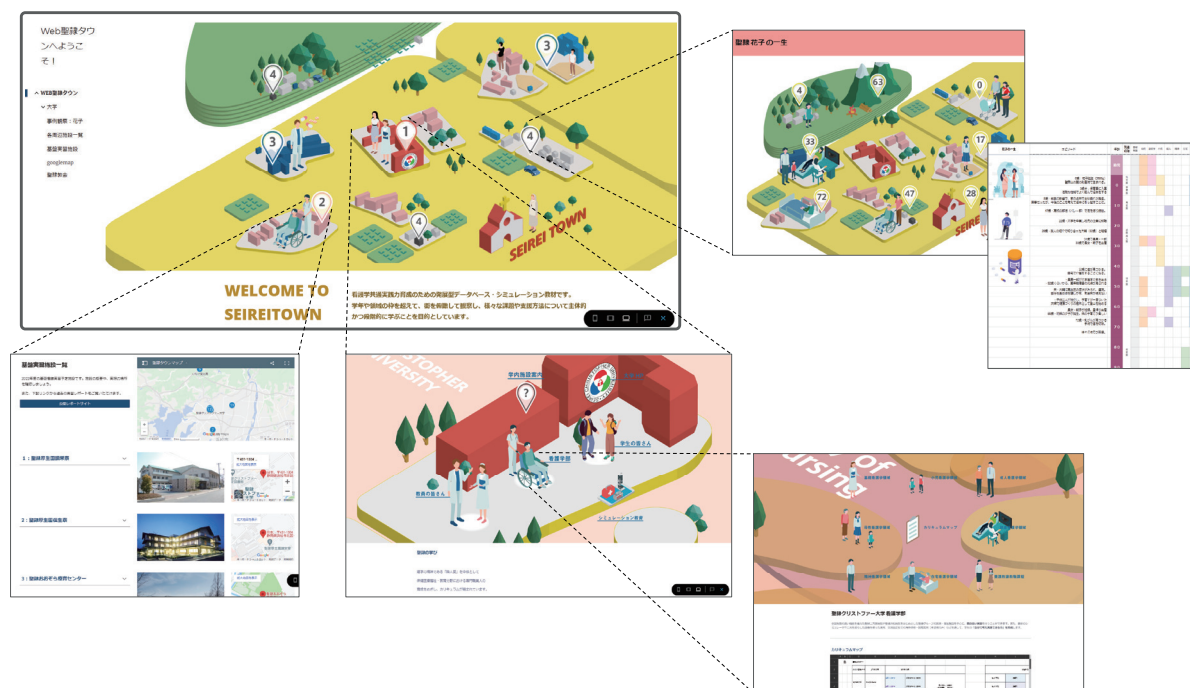


図1. Web聖隷タウン (Google siteを使用したプロトタイプ作成イメージ)

のフィジカルアセスメント」、助産学専攻科は「リア投影型スクリーンを用いた学外授業（性教育）」、母性看護領域は「未熟児シミュレータを用いたハイリスク新生児のシミュレーション演習」、基礎看護学領域からは「高機能患者シミュレータを用いた急変時に必要なフィジカルアセスメント」について実践報告がなされた。また、本学が実践してきたシミュレーション教育における様々な創意工夫について質問があがり、意見が交わされた。

VIII. 研究活動（学会発表・投稿論文）

本学看護学部のシミュレーション教育に関する国内外の学会発表の実績は以下のとおりである。

- ・コロナ禍における模擬患者を活用した 2020 年度基礎看護学実習 I の実践報告（2021 年 9 月 第 12 回せいいろ看護学会学術集会にて発表）
- ・聖隷クリストファー大学看護学部のシミュレーション教育における技術支援員（テクニシャン）の実践報告（2022 年 2 月 日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会にて発表予定）
- ・聖隷クリストファー大学看護基礎教育における 2020 年度シミュレーション教育の実践報告（聖隷クリストファー大学看護学部紀要, No.29（2021）投稿）

IX. 終わりに

学生が、これまでに学んだ知識を様々な状況にある対象者に応じて使い分ける力を習得していくとき、失敗しても患者、学生の双方の安全が確保され、学生の主体性を引き出すことができる教育手法として、シミュレーション教育に期待は、さらに高まっている。さらに、現在では、厚生労働省は、コンピテンシーの修得を目指すためにシミュレーショ

ン学修を促進しており、シミュレーション教育からシミュレーション学修への意識転換が求められている。一方で、アクティブラーニングの一つの手法としてシミュレーションラーニングを支援する教員のファシリテーションスキルや、教材や環境などの組織的課題がある（阿部，2020）とされている。

本学看護学部においても、多くの領域で積極的にシミュレーションを取り入れた教育の実践が行われている。

こうしたことから、本委員会は、これからも各領域で実践されるシミュレーション教育実践が円滑かつ、充実したものとなるように寄与していく必要がある。

課題としては、①各領域のニーズを反映した汎用性の高いシミュレータや教材の整備、②遠隔形式においても安定した学修が可能な環境の整備、③シミュレーション教育の支援に重要なテクニシャン・デザイナー・Web オペレーターといった補助要員の継続的な確保が挙げられる。

謝辞

本報告の投稿に際し、ご協力くださったすべての先生方に深謝いたします。くわえて、本年度もシミュレーション教育委員会の活動へのご理解とご協力を賜れたことに、心より御礼申し上げます。

文献

阿部幸恵（2019）：これからの看護教育の話をしよう，看護教育，60（8），666-677.

阿部幸恵，矢代利香（2020）：看護師のシミュレーション教育に関する研究の動向，看護科学研究，18（1），12-17.

板橋綾香，臼井いづみ，高橋聖子他（2013）：実践力を育てる 看護のためのシミュレーション教育（阿部幸恵編），pp.21-63，医学書院，東京.

入江拓，清水隆裕（2014）：予期的社会化プ

- プログラムを視野に入れた精神看護学看護学教材の作成と活用の検討－看護大学生の特性と眺める対人状況の風景の違いに焦点を当てて－, 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 22, 5-25.
- 入江拓, 清水隆裕 (2014): 看護大学生の特性をふまえた精神科看護に必要な対人理解の素養の育成に関する研究, せいれい看護学会誌, 5, 1-6.
- 入江拓 (2018): 看護教員のあり方への危惧, 看護教育, 59 (4), 263-266.
- 厚生労働省 (2007): 看護基礎教育の充実に
関する検討会報告書,
<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/dl/s0420-13.pdf>, (検索日: 2021 年 12 月 24 日).
- 厚生労働省 (2011): 看護教育の内容と方法
に関する検討会報告書,
<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001316y-att/2r985200000131bh.pdf>,
(検索日: 2021 年 12 月 24 日).
- 清水隆裕 (2015): 教員は「看護」「精神看護」「自分自身の看護」という 3 つの層を語る必要がある, 精神看護, 18 (5), 444-449.
- 清水隆裕 (2018): 学生と同じく弱さを抱えた私, 看護教育, 59 (4), 258-262.
- 清水隆裕, 入江拓 (2018): 看護の源泉たる弱さの自覚と共感についての一考察, 聖隷学園浜松衛生短期大学の教育理念から, 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 26, 59-68.
- 清水隆裕, 松本有希, 入江拓 (2021): 弱さの自覚と看護の源泉に関する概念図の解説, 聖隷短大の看護教育理念から, 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 29, 107-117.
- 清水隆裕 (2021): 精神看護学実習による学生の成長体験, その語り・レポート・記録から, 精神看護, 24 (3), 229-233.
- 清水隆裕, 入江拓 (2022): 看護学生が看護の源泉たる弱さの意味を自覚するプロセスと教育的環境の考察, 聖隷短大学の教育理念から, 聖隷クリストファー大学看護学部紀要 (in press).
- 炭谷正太郎, 久保田君枝, 檜原理恵 他 (2017): 聖隷クリストファー大学看護基礎教育における高機能患者シミュレータを用いたシミュレーション教育の経緯と展望, 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 25, 30-39.
- 炭谷正太郎, 久保田君枝, 小池武嗣 他 (2020): 聖隷クリストファー大学看護基礎教育におけるシミュレーション教育の実践, 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 28, 1-12.